

部会あげての夏秋キュウリ IPM技術導入の取り組み

球磨地域は夏秋雨よけキュウリの栽培が盛んで、生産者177戸、約25ha栽培されています。他の産地同様、球磨地域でもアザミウマやコナジラミなどの微小害虫や褐斑病の発生に苦慮しており、これら病虫害の防除対策が課題のひとつとなっています。そこで、JAくま胡瓜部会では、関係機関と協力して、天敵農薬スワルスキーカブリダニや褐斑病耐病性品種など総合的病虫害(IPM)技術の導入に取り組んでいます。スワルスキーカブリダニについては、大規模導入実証で約30戸の生産者が導入を行ったところ、9割の生産者で防除効果が認められたとの認識が示されました。また、褐斑病耐病性品種については、野菜振興協会球磨支部でも展示ほを設置するなど、JA、部会と連携して品種検討・導入の後押しを行っています。これらの取り組みにより、部会では球磨地域の作型に合ったIPM技術導入を目指し、安全安心なキュウリ生産を進めています。



天敵導入の様子



褐斑病耐病性品種展示ほ